

# 三條新聞

## 2023.10.29

### 無題録

○：県立新潟県央工業高校（松原直樹校長）は明治四十四年に南蒲原郡立三条商工学校として開校。三条工業学校、三条実業高校、三条工業高校を経て平成十六年に燕工業高校と統合して新潟県央工業高校となった。かつてはやんちゃな生徒も多かった。映画『ビー・バップ・ハイスクール』や、テレビドラマ『今日から俺は』に登場するような、髪をリーゼントやオールバックに決め、丈がひざ下まである長ランや、逆にへそまでしかない短ランを着て、ぺしゃんこにつぶした学生カバンを持ちつた生徒などだ。有り余る力をケンカで発散させるきかんぼつもいれば、禁止されていたバイクで暴走するワルもいた。

○：変われば変わるものだ。同校が二十七日に開いた創立百十周年記念式典には、四百人近い生徒が出席した。近い生徒が出席した。パップ・ハイスクール』や、テレビドラマ『今日から俺は』に登場するような、髪をリーゼントやオールバックに決め、丈がひざ下まである長ランや、逆にへそまでしかない短ラン

も暴走もしそうになつてた学生カバンをちいさな生徒たち（きんしゃ）に見えるのに、レスリングやウエートリフティング、弓道、ロボット競技は全国大会、陸上や卓球、水泳は北信越大会に出場。全国選抜高校生溶接技術競技大会では日本一になったといっただから二度驚いた。

○：式典最後の校歌斉唱は伴奏なし。全生徒が手を後ろに組み、背を反らすようにして腹に「学生時代に外したから声を出し、講堂を大音響で満たした。清カバでできるぞ」と教廉の雪「弥彦の日光えてくれている。」(杉

胸にし」「テクノロジースト」と一節ずつ区切って歌う歌詞は、県央工業となった後に西蒲原郡出身の芥川賞作家藤沢周氏が作った。新たな県央工業の名物にもなりそうな大迫力の校歌。もつ一度、甲子園球場に響かせてくれたものだろうか。ちなみにやんちゃだった先輩たちはいま技術者として、経営者として、地域の産業を支えている。先輩たちは現役生に「学生時代に外した羽目など、いくらでも